



『人々の歴史が息づく戸隠高原』

戸隠自然保護官事務所 アクティブレンジャー 赤梅 琴美



ミズバショウと戸隠連峰(5月 森林植物)

上信越高原国立公園・戸隠地域は、日本で2番目の大きさを誇る同公園に、昭和31年に編入されました。この地域のシンボルともいえる戸隠連峰は、2,000m級の山々が連なります。この一帯は、約400万年前にはクジラが泳ぐ海の底でしたが、その後の海底の隆起や火山活動を経て現在の姿になりました。山と高原に囲まれた自然豊かな地域で、日本で有数の野鳥観察地としても有名です。特に春は観察できる野鳥の種類が多く、愛鳥家たちでにぎわいます。

また、戸隠地域には昔からの人々の暮らしがあり、地域特有の魅力の一つとなっています。雄々しい戸隠連峰は古くから信仰の対象となるとともに、その険しさから修験道の道場として栄えました。麓には奥社、九頭龍社、中社、火之御子社、宝光社の「戸隠五社」があり、今でも多くの参拝客が訪れています。名物「戸隠そば」は、遠い昔に参詣者に振る舞った「そば切り」が起源とされています。この地に今なお伝わる神話や伝説にも、興味深いものがたくさんあります。

山に囲まれた雪深いこの地では、人々が自然を敬い、利用することで独特の文化がはぐくまれました。雄大な自然と人の歴史が深くかわる戸隠へ、是非お越しください。



戸隠山登山の難所登り道と戸隠高原



FOCUS



2011-2020
United Nations Decade on Biodiversity

国連生物多様性の10年 国際キックオフ・イベント

「国連生物多様性の10年」とは？

2010年10-11月に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)では、生物多様性の損失を阻止し、地球上の生態系を維持するために多様な主体が行動するための指針となる「生物多様性戦略2011-2020」や「愛知ターゲット」等の重要な決定が採択されました。

また、2011-2020年の10年間で、生物多様性戦略を達成するための「生物多様性の10年」とすることが承認され、同年12月に行われた第65回国連総会(UNGA)において採択されました。



この生物多様性の10年の始まりを記念して行われた国連生物多様性の10年国際キックオフ・イベントは、2011年12月17-19日の3日間に渡り石川県金沢市にて開催され、国連機関等から30か国600人以上が参加しました。

初日の記念式典で、愛知目標の達成には今後の10年間の取組が重要であるということが再認識され、歓迎レセプションではリオ+20と生物多様性実行委員会によって「石川宣言」が合意されました。

2日目のワークショップと記念フォーラムでは各主体の今後の具体的な取組についての報告を織り交ぜたパネル討論などが行われ、最終日のエクスカージョンでは自然と人々の生活の共生を図る伝統的な知恵の例について、石川県内各所への視察が行われました。